

## 「伝統」って楽しい!

みそ作りに29人が挑戦

みそ作り道場(市生活研究グループ連絡会主催)は2月18日、和野伝承館で開催しました。会員の指導の下、29人の参加者は大豆をつぶしたり、麴・塩と混ぜたりと、みそ作りに格闘。中の空気を抜くため丸めたみそ玉を勢いよくたるに投げ込むなど、伝統の作り方を楽しみました。



「おいしくできるかしら♪」今から楽しみ

初参加の四役光子さんは「本当に楽しい。次は豆腐作りに挑戦したい」とニコリ。みそは、たるの中で一年ほど寝かせて完成。来年、同道場を開催した際に、みそ汁などにして味わいます。



市日にも品がズラリ。「迷っちゃうな〜」



特製カニみそまんを目当てに長い列



カニだけじゃない! 春ワカメのしゃぶしゃぶも人気です



「おいしそ〜」。みんなの手が伸びるホッカホカのゆでたて毛ガニ。活毛ガニとともに飛ぶように売れていきました

## 毛ガニで盛況冬の市

冬の街なかに3,000人

この冬最後の北三陸くじ冬の市(同実行委員会主催)は2月28日、やませ土風館周辺で開催。毛ガニをテーマとした内容で約3,000人が来場し、にぎやかに久慈の冬を彩りました。

目玉は久慈産毛ガニの格安販売で、販売開始を待ちかねたお客が長い列。用意した約150kgのカニは飛ぶように売れ30分足らずで完売しました。このほか1個当たり半匹分のカニ肉が入った特製カニみそまんや、春ワカメのつかみどりも大人気。観客は久慈の豊かな食の魅力を満喫していました。

売り切れ間近の毛ガニをなんとかゲットした木村みゆきさん(八戸市)は「売り切れないう祈りながら順番を待った。家族は皆カニが大好き。今夜はおいしい夕食になりそう」と喜んでいました。

## まちの話題をおすそ分け 広報リポーターの突撃取材!

桜の名所「夏井」を取り戻そう!



目指せ名所! 活動にも力が入ります

夏井川堤の景観を創る会(上夏井二三男会長)は3月22日、日本桜の会から贈られた6種類、約200本の桜を夏井小の裏山に植樹。会員らは「将来、桜の名所になってほしい」と願いを込めながら汗を流していました。(生平隆リポーター)

鐘鳴る学校で希望の巣立ち



鐘の音を聞きながらアーチをくぐる卒業生

大川目小(高橋岩男校長)の卒業生24人は3月19日、鐘の音に祝福されながら6年間の思い出を胸に学び舎を巣立ちました。鐘の鳴る卒業式は町民にとっても楽しみ。みんなで最後まで鐘の余韻に浸っていました。(小倉利之リポーター)

## 新天地へ意欲は満々

自衛隊入隊予定者があいさつ



「頑張ります!」と拳を掲げる頼もしい生徒たち

自衛隊に4月入隊予定の中高生は2月28日、市役所を訪問。山内隆文市長にみなぎる意欲と熱い決意を語り、新天地での活躍を誓いました。山内市長は「海外での活動や災害・事故の対応もする自衛隊の任務は大切。この決意を忘れずに頑張ってください」と目を輝かせる生徒にエールを送りました。

入隊種目と氏名は次のとおり。(敬称略) ◇一般曹候補生=三上結、嵯峨真澄、茅森大樹(共に久慈高)、川代歩(大野高) ◇2士=鳥谷恵美(久慈高)、城内陵馬、日影省吾(共に久慈東高)、桑田歩幸(久慈工高) ◇自衛隊生徒=伊勢崎政宗(久慈中)

## 未来のために一歩前

まちづくり講演会で協働考える

「なぜ今協働が必要なのか」を改めて考える、まちづくり講演会は3月7日、アンバーホールで開催。130人が参加し「協働」に理解を深めました。

健康や世代間交流、景観づくりなど幅広く取り組む横沼町内会の大向達夫会長が活動事例を発表。「みんなで支え合い、孫と一緒に住める地域を目指す」と意欲をにじませながら発表しました。講演ではNPO法人アイディング(盛岡市)常務理事の甲山知苗さんが、協働の仕組みや必要性を説明。「地域の未来のためにもう一歩踏み出し、みんなで力を尽くしましょう」と熱いメッセージを送りました。



「地域の未来のために」と熱弁を振るった甲山さん

## 美味の秘訣は地域の熱意

地元産特別純米酒「涼霞」を発表



「さあ飲もう」。名は涼やかでも心は熱い! 好評の「涼霞」

久慈地方酒米研究会(宇部繁会長)と酒造会社の福来(大沢光太社長)が手を携えて取り組んできた地元産酒米100%の特別純米酒「涼霞」がついに完成。3月4日、やませ土風館で発表会が開かれました。やませと格闘しながら生育させた酒米作りの経過を報告した後は、いよいよ試飲。地域の熱意が生んだ待望の地酒に約90人が舌鼓を打ちました。

宇部会長は「来年はさらに良いものを。今後、売れ行きを見て耕作面積も広げていきたい」と意欲をにじませています。「涼霞」は市内の小売店などで販売中。問い合わせは(株)福来(☎56-2221)へ。